

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401764		
法人名	社会福祉法人 北串会		
事業所名	グループホームかをり		
所在地	長崎県雲仙市小浜町山畑3144		
自己評価作成日	平成28年1月31日	評価結果市町村受理日	平成29年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成29年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

かをりは、自然豊かな静かな場所にあり、海と一年中きれいな夕日を眺めることができます。敷地内では家庭菜園を行っており、多種類の野菜を育て、成長を見守り、収穫した野菜を、利用者の皆様と一緒に下ごしらえし食すことで、おいしく季節を感じてもらえるように努めています。また同法人である北串保育園と定期的にお互いの行事に招待し参加することで、利用者と子供達との交流の機会が多いのが魅力の一つです。近所の方や近隣の小中学生からの訪問もあり、地域との交流も深めています。さらに利用者には毎月2回整体師によるマッサージを受けていただき、心身の疲れを癒していただいています。スタッフ全員が利用者・家族の意向に沿って丁寧に接しながら、利用者一人一人の生活のペースや残存能力に応じた介護支援を行い、笑顔と笑い声の絶えないホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より年を重ね、ホーム行事や保育園・小中学校との行事交流に留まらず、日常的に顔なじみとなり挨拶をするなどの幅広い交流に広がっている。また、利用者も地域住民と自然な近所付き合いがある。中でも避難訓練に地域からの参加があり、地域に密着した事例が多く確認できるホームである。また、家族宛ての毎月の便りは、利用者の生活や体調など様子を詳細に記載しており、家族にとってわかりやすく、職員の利用者を思う気持ちが表れている。往診可能な医師との連携で、利用者が最期までホームで暮らせるための体制ができ、数例の看取りを支援している。職員会議や研修では、職員が主体となってアイデアを出しており、話しやすい雰囲気の中、研修や毎月のケア目標を策定する仕組みを構築している。メリハリのある勤務や職場環境は、職員のプロ意識の向上にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフで作った理念と「職場の教養」を毎朝の申し送りで読み上げ、一日の実践に繋げている。	運営理念・介護理念を基に「1日1回以上利用者の目を見て、笑顔で会話する」という目標を付け加え、朝礼時に唱和している。今年は職員が毎月ケア目標を立てることで、理念の共有と意識づけを行っている。「ありがとう」の気持ちで利用者に向かい、ケアの姿勢に具現化され実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の行事には積極的に参加しており、地域の方に定期的に行事の参加を案内している。また、日常的に近隣の方とも利用者・職員共に気軽に声かけ、会話する姿が見られる。自治会にも加入している。しかし地域の高齢化もあり、行事の参加は少ない。	自治会の清掃活動に、職員が参加している。地域行事には、利用者と共に参加している。クリスマス会や避難訓練などホーム行事にも地域住民の参加がある。小中学生は職場体験などの交流がある。保育園との交流機会が年々増し、行事以外でも園児と保護者がホームを訪れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等で地域の方々に足を運んでもらい、関わってもらうことで、認知症について少しずつ理解してもらえていると思う。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回会議を開いており、各委員との意見交換を行い、他の職員も議事録等でその意見を共有することで、サービス向上に生かしている。	年6回規程メンバーで運営推進会議を開催している。会議内容は議事録に要点をわかりやすくまとめている。職員回覧や全家族へ郵送し、ホームのサービス取組状況を共有している。参加者から地域高齢者の状況を聞き、地域と連携して声掛けするなどの取組みに繋がっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に地域ケア会議に参加し、事例検討会を行っており、時にはホームに事例についても相談し、意見交換をしている。	島原地域広域市町村圏組合の介護保健課と連携し、利用者やホームの相談事項に応じてもらっている。福祉事務所とも連携している。連絡協議会に参加し、ホーム運営や介護に関する最新情報を得ている。研修にも職員は参加しており、前年は介護相談支援員の受入れもあった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、学んだ事をスタッフ間で共有し、身体拘束をしないケアを目指している。日中玄関のカギは掛けずに利用者の行動を見守る支援をしている。	身体拘束をしないケアについて、外部研修を受講している。内容を回覧しミーティングで全職員共有している。また、内部研修でも取り上げている。身体に限らず、言葉による拘束についても職員はその弊害を理解している。日中は施錠も無く、外出の際は職員の見守りによる支援である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃から虐待にならないケアを心掛けており、入浴の際には、全身状態の観察・確認を行っている。研修にも参加するようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	できるだけ研修会に積極的に参加して知識や理解を深め、必要性があればスムーズに行えるように、日頃から各関係機関との連携を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、必ず契約書や重要事項説明書等の内容を利用者や家族にわかりやすい言葉で説明している。また改定の際は同意書を作成し、質問に丁寧に対応し、十分な理解を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見・要望などは管理者や職員側から尋ねるようにしており、可能な限り運営に反映させている。	家族の訪問時には管理者や職員が、要望や意見などがないか尋ねている。ホームの行事への参加を呼び掛けたり、遠方の家族には電話を掛けている。毎月、利用者の担当職員が家族宛てに手紙を書いており、本人の様子などを知らせている。家族からの情報でレクリエーションの道具を購入した例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見や要望などは代表者や管理者側から尋ねるようにしており、可能な限り反映させている。	施設長や管理者は、普段から職員が話しやすい心がけている。毎月のミーティングには施設長と全職員が出席し、職員の提案を全員で検討している。また、年1回個人面談を行っており、受講したい研修の希望を聞いて反映するなど、働きやすい職場となるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り希望などあれば聞くようにしており、職員が向上心を持って働けるように職場環境・条件(給与や勤務体制)の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には内容に適した職員に参加してもらっており、内容についてはミーティングで報告している。また、毎月のミーティング時に施設内研修も行っており、職員全員の知識・スキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に交流会や勉強会に参加して、情報交換したり、アドバイスや相談を受けながら、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より積極的に会話をもち、ゆっくりと時間をかけ、本人の気持ちに寄り添い、要望等に耳を傾けて、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、家族と積極的に会話を持つようにし、気軽に話せるような関係作りに努めている。そして、本人の支援には家族の協力が一番大切だという事を理解してもらい、可能な限り家族の意向に沿えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の本人、家族の要望と状況を把握し、話し合い、サービスを検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体調に合わせて、洗濯物たたみや掃除などできる範囲で一緒に行ってもらい、自立した気持ちで、家庭的な日常生活を送ってもらうように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際などに、家族の意向に耳を傾け、またこちらの要望なども伝え相談し、家族の協力も得ながら、共に支えて行けるような関係を作れるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、馴染みの人や場所との関係が途切れないように、面会したり、ドライブしたりして支援を行っている。	入居開始時に聞き取った生活歴を基に馴染みの人や場所を把握している。さらに、日々の支援で知り得た情報は、基本情報に加筆することとしており、新しい情報を職員間で共有する仕組みがある。情報を基に、理美容院や商店に出掛けたり、毎月墓参りに行く利用者を支援するなど、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の毎日の様子を観察し、発した言葉に耳を傾け、孤立や対立がないようにコミュニケーションに配慮し、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族とのこれまでの関係性を維持し、必要があれば相談できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から希望を聞き、意向の把握に努めている。また、ミーティング等で意見を出し合い検討している。	本人の居室やリビングのソファで寛いでいる時に横に座って、1対1になる機会を設け、本人の気持ちを聞き取っている。表出困難な利用者の場合には、家族と一緒に意向を確認するなど、工夫している。思いや意向を把握した際には、ミーティングにて検討し、反映するよう努めているが、得た情報をまとめる方法が課題である。	利用者が発した言葉や思い出話から得た支援に役立つ情報を収集する方法が必要であり、さらに支援に役立てるためには職員誰もがわかるよう統一した様式の検討も望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に関係各機関からの情報や、本人との日常会話や家族からよく聞きだし、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方、心身状態など観察・記録し、職員間で申し送りし、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで、日頃の気づき・課題について担当職員が報告し、他職員にも気づきを述べてもらい、ケアマネジャーが判断し、モニタリング評価表をもとに計画書を作成している。家族の要望は面会時や電話で聞き、計画書に反映し同意を得ている。	ミーティング時に職員カンファレンスを行っている。長期6ヶ月短期3ヶ月の支援目標で、3ヶ月毎にモニタリング評価している。更新前迄に、家族や本人との会話の中から意向を汲み、介護計画を作成し同意を得ている。ただし、利用者の生活の質を向上するための計画まで至っていない。また、支援の実践状況が記録からわかりにくい。	日常生活動作だけでなく、QOL(生活の質)に着眼点をおいた個人に特化した支援計画の作成が望まれる。また、介護計画の支援目標の実践内容が確認できるような記録の取り方の検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を作成しており、細かい変化等は特記事項として記録し、職員間で情報共有し、実践や介護計画の見直しの生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の希望や状況に応じて、受診など医療機関との連携に通じており、医師や看護師による支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生との交流会や中学生の職場体験また、保育園児との交流や近隣の方との関わりを保ち、心身共に楽しく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医と連携を取りながら、受診・往診し、医療面での支援を行っている。また今後予想される看取りについての相談や支援も行っている。	かかりつけ医を継続しており、職員が通院介助している。家族が対応する場合は、ホームに受診内容の報告がある。歯科は往診がある。受診内容は毎月の便りで家族へ報告している。職員に看護師がおり、夜間、緊急時の連携体制が確立している。マニュアルもわかりやすく職員は理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制として看護師に利用者の健康チェック・指導を受け、また利用者の体調変化や気づきを報告し、相談をしながら、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた場合は、面会を行って、本人の状態を確認し、病院や家族からの説明を聞き、退院に向けての情報や退院後のアドバイス等の情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方については、入居時に家族に説明している。また、状態の変化時等段階に応じて、終末期の話し合いをし主治医とも相談しながら取り組んでいる。	看取りの事例がある。利用開始時に、重度化や看取りに関する指針を説明し同意を得ている。その後、本人の状況に応じて、家族・医師との話し合いの場を設けている。看取り支援中も、常に家族の心情を汲んでおり、臨終時には、住職である施設長がお経をあげ、職員が集まり思いを共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応マニュアルや緊急時連絡網を作成し、救急要請や医療機関へ連絡するように取り組んでいる。また、消防署職員による初期対応の訓練を受けているが、継続して訓練を行い、実践力を向上させていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回消防署職員のもと訓練を行い、地域の方にも年1回合同訓練に参加してもらい、協力体制を確認しているが、繰り返し訓練する必要がある。毎月防災設備点検チェックも行っている。	年2回消防署立会いの訓練には地域住民や消防団の参加がある。報告書は、消防署からの指導と自らの反省課題をわかりやすくまとめている。ただし、課題解決までに至っていない。また、避難誘導後の確認方法を検討中である。自然災害について運営推進会議で議題にあげているが、マニュアル及び持ち出し備品はこれからである。	火災訓練後の課題抽出後の対策について、訓練内容、回数、避難後のルールを含め、検討することを期待したい。また、自然災害についても、具体的な対応を検討することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみやすい方言を使いつつ、丁寧な言葉使いを心がけ、個人の誇りやプライバシーを損なわないよう大きな声は出さず、穏やかな声かけを行っている。	会話の中に個人情報が出る送りやミーティングは必ず事務所で行い、メモは持ち出さないことをルールとしている。個人情報の文書類は所定の場所に保管し、職員には守秘義務の誓約書を取っている。職員は接遇について内外研修を受講し、利用者はさん付けで呼び、誇りやプライバシーを損ねない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを伝えたり、態度に表したりしたときは、選択肢を提供し、自己決定ができるように声かけし、本人の意志をくみ取るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを第一に優先し、気分や体調・希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは好みを聞いたり、理容は馴染みの場所へ行けるように支援したり、2ヶ月に一回は美容師に出張カットをしてもらっている。また朝、洗面時は鏡を見てもらい、寝ぐせを直すなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握し、献立を考え、食べやすい形態を工夫し、見た目にもおいしく感じられる様に提供している。また、ホームの家庭菜園で採れた野菜の下ごしらえや食事、片づけも利用者と一緒にしている。	近所の農家や家族から季節の収穫物が届き、献立に入れて旬を楽しんでいる。誕生日には本人の好きなメニューを聞き、ノンアルコールビールで祝杯をあげている。正月は屠蘇や清酒を提供したり、春秋の牡丹餅作りや2月は恵方巻き作りなど、季節ごとの楽しみを食事を通して支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や習慣に合わせて、食事量や水分量は調整している。食事内容や水分量は毎日記録して、体調の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には口腔体操、食後には歯磨きをしてもらい、一人一人に合わせて、介助を行っている。また月に2回の歯科医による口腔チェック・ケアも取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、排泄パターンを把握し、随時声かけ、誘導を行い、失敗を少しずつ減らせるように支援している。またできるだけ見守りし、自立できるように支援している。	職員は、個別の排泄記録を見ながら排泄の時間帯を把握して、誘導している。夜間も声を掛け、トイレでの排泄を支援している。昼間は布パンツだけで過ごす利用者もあり、職員は排泄に自立の重要性を理解している。入院時はオムツ、リハビリパンツだった利用者が布パンツに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に合った食事を考え、水分摂取は1日1,000cc以上を目標とし、運動の働きかけも行い、便秘のパターンを把握し、緩下剤などもその人に合った調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別に曜日を決めた入浴は行っていないが、一人一人の希望のタイミングに合わせて声かけし入浴してもらっている。状況に合わせて入浴順序を考えて、ゆっくり入浴を楽しめるようにしている。	入浴は夏場は毎日、冬場は1日おきに湯を沸かし、全員の入浴を支援している。拒否がある場合は、翌日に支援するなど無理強いすることはない。利用開始時は同性介助に配慮し、信頼関係ができると異性でも問題なく支援している。車椅子の利用者も浴槽に浸かっており、季節の湯を提供し楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は運動やレクリエーションを行い、夜間の安眠につなげている。また、昼食後しばらく居室で休んでもらい、足を休ませるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬管理表を作成し、必ず記録・確認・把握するようにしている。また、服薬管理マニュアルを作成し、それに従って服薬支援を行っており、薬の効能・副作用が毎回確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた手伝いや役割、楽しみ事など意欲が持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の体調に応じて、ホームの周辺を散歩したり、ドライブしたりしている。また家族の協力も得て、外出の機会を増やしている。	天気のよい日は、庭や外を散歩している。近隣の散歩では、近所の人との会話があり、普段の生活を感じることができる環境である。墓参りのために毎月家族が訪れ、利用者と共に出掛けている例もある。また、季節ごとに花見に出掛けたり、ホームの庭で芋掘りするなど戸外に出るよう工夫し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の希望がある場合は、手元にお金を所持している利用者もあり、買い物時に支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への年賀状を職員と協力して書いている。また本人の希望があれば、相手の方に電話で話してもらえるように支援している。また、毎月1回職員が手紙と写真で、利用者の状況を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからの眺めが良く、朝日から夕陽までを見ることができ、時間を感じられる環境である。また、明るさ・温度・湿度に気を配り、季節の物や手作りのものを飾るなどして、快適な空間づくりに努めている。	日当たりのよいリビングには、ダイニングテーブルとソファがあり利用者の歩行状況に応じ、調度類の配置を変えている。共同生活でありながら、その人らしく過ごせる場である。今年は直射日光対策とし、日よけを設置している。職員が毎日清掃、換気し、感染対策も徹底しており、居心地よい環境を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者の配置を考え、それぞれが自由にゆっくり心地よく過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や馴染みの物を置いてもらい、居心地の良い居室づくりに努めている。	利用者がホームでの暮らしに馴染むよう、自宅からの持込みは自由である。テレビや仏壇、調度類の持込みの他、写真や作品を飾り、その人らしく暮らせる居室となっている。持ち込みの寝具は年2回クリーニングし、天気のいい日は外に干している。換気や掃除は職員が毎日行い、常に快適な環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けて、手すりや目印になるものを設置・掲示して、できるだけ安全に行動できるように配置を考えたり、不安なものは置かないようにしている。		